



## 一人一人が環境にやさしい 仕事をするために

2003年1月、狭山事業所がISO14001の認証を取得しました。チャレンジを開始したのは2002年2月。狭山工場、生産管理センター、生産技術センター、狭山流通センター、狭山情報センターという異なる部門を含んでの取り組みでしたが、一人一人が環境にやさしい仕事をするを方針として掲げました。そして、工業排水や廃棄物、環境緑化など環境に著しい影響を与える可能性のある11の要因を特定し、重点的に管理してきました。コーセーグループは、以前から美に関わる企業として、環境にもやさしい企業でありたいと考えていました。1970年代には社内に公害防止委員会を設置するなど、早くから環境問題に取り組んでいます。しかし、公害問題やオゾン層の破壊などが明らかになるにつれ、企業も自らの活動を見直す時代を迎えたため、1997年には社内に地球環境委員会を発足させるとともに、ISO14001の環境マネジメントシステムの考え方を導入して『環境基本方針』と『環境行動指針』を策定しました。この考え方に沿って、生産部門を中心にISO14001の活動を開始し、群馬事業所が2000年に認証を取得しました。今回、狭山事業所がそれに続く形で認証を取得しましたが、現在は関係会社と全国6カ所の流通センターにISO14001の認証を拡大させたいと考えています。また、全社員が環境にやさしい仕事をするための目標として、毎年『コーセーエコプラン』を掲げて活動を推進していますが、2002年4月から2003年3月までの活動の結果を環境報告書という形でまとめました。活動の内容も、またデータの収集等に関しても、まだ不十分な面がありますが、私たちの活動の一端をご理解いただくとともに率直なご感想を賜りたいと考えております。皆様のご意見を参考に、今後の活動をさらに実りあるものにしてまいりたいと思いますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

2003年9月  
株式会社コーセー  
代表取締役社長 小林 保清

*Y. Kobayashi*



## 緑を増やしています


狭山事業所のISO14001の推進にあたっての特長は、環境に著しい影響を与えると思われる要因を11項目抽出し、活動の重点としていることにあります。主なものとしては電力や重油等のエネルギーに関する項目、排水や廃棄物等に関する項目、滅菌ガス等の作業に関わる事項などがありますが、今回のISO14001へのチャレンジにあたっては、環境へのプラスの側面として、あえて緑化事業を重点項目に加えました。

狭山事業所はもともと1969年に狭山工場としてスタートしました。敷地面積は106,000㎡と、当時の化粧品工場としては日本最大級の規模だったため、設計にあたった担当者は欧米の工場まで視察して公園型工場の建設を目指しました。その結果、緑の芝生、四季折々の花が植えられた花壇、散策の出来る遊歩道、野球のグラウンドまで備えた環境に恵まれた美しい工場が完成しました。とりわけ桜(46本)や花木(31本)を中心とした樹木も多く植えられ、過去に緑化優良工場として2度表彰されたことがあります。

現在では、企業規模の拡大に伴って工場施設も狭山事業所内の部門も大幅に増えましたが、それでも敷地全体の約25%が緑地となっています。特に樹木については、花壇の周囲の植え込み等の低木を除いて637本が植えられています。

この緑地を守るだけでなく、植樹等によってさらに緑化を促進させていく活動をISO14001の重点項目として取り組んでいます。

### 狭山事業所内の主な樹木

桜		46本
花木		31本
QCサークルの記念樹		85本*
その他の記念樹		19本

\* (注) QCサークルは社員自らが同じ仕事をする仲間でチームを組んで品質管理活動に取り組むサークルで、チームを結成した記念や、県大会や全国大会で改善活動等の発表を行った記念に植樹したものです。